

## 税で命を繋いで…

所沢市立狭山ヶ丘中学校

三年 川島 杏香

私は0歳の時から税に支えられていた。私は0歳の時に小児がんを患っていることが分かった。とても治療が難しい病気で、手術をしたり、抗がん剤を使ったりして、治療をしなければいけなかった。でも、そのような治療は多くのお金が必要だった。

さらに、私の親も、急にそのようなお金を払うことはとても大変だったと思う。そんな事を考えていると、母が当時の私の病気についてのたくさんの資料がまとまっているファイルを渡してくれた。私とそのファイルを開いていくと、「費用」という文字が見えた。その資料の表紙には、太文字で「小児慢性特定疾患医療給付制度」という文字が書いてあった。私には、その制度がどのようなものなのか、全く分からなかった。気になって読んでいくと、やはり税に関係しそうな内容だった。この制度は「児童福祉法第二十一条に基づき、子どもの慢性疾患のうち、国が指定した疾患（小児慢性特定疾患）の診察にかかる費用等を県が公費で負担する制度」だそうだ。私のような小児がんなどを患っている子どもの治療費を県が負担してくれるという事は、その家族にとっても、とても助かることなのだろうなと思った。私もこの制度を受けることができるとも助けられて安心したと母が言っていた。私は、医療費などのために、税金が使われていることは知っていたが、私もこんなに税金に支えられていて、

そのおかげで今、病気も治って元気に過ごしているのだと思うと本当にありがたいなと思う。いつも私たちが何か買う時に必ず払っている税金は、私のような病気で悩んでいた人々の役に立っているのだと思うと、私も助けることもできているのだと感じ、とても嬉しくなる。まだ世の中には、税金の役割や大切さ、陰で税金に命を救われている人もいるという事を知っている人は少ないと思う。だから、実際に税金に助けられた私が周りの人に、税金の大切さを伝えていって、人のためにと思いつつ税金を払う人がたくさんいる温かい世界になったら嬉しい。